

2018年

12月16日
(SUN)

13:30～17:15

「周辺」を いかに語るか / 語りうるか

茨城大学・宇都宮大学・福島大学
三大学研究コンソーシアムシンポジウム

会場

茨城大学図書館
ライブラリーホール
(茨城県水戸市文京2-1-1)

主催

茨城大学人文社会科学部
宇都宮大学国際学部
福島大学行政政策学類

お問
合せ

茨城大学人文社会科学部
市民共創教育研究センター
電話 029-228-8104

第1部

13:45～14:55

「周辺」をいかに語るか/語りうるか (1)

各大学による問題提起と展望

内田 聡

(茨城大学人文社会科学部長)

佐々木一隆

(宇都宮大学国際学部長)

鈴木典夫

(福島大学行政政策学類長)

第2部

15:05～17:15

「周辺」をいかに語るか/語りうるか (2)

中山間地域・地酒・自給社会

コーディネーター：佐川泰弘 (茨城大学人文社会科学部 市民共創教育研究センター長)

空間の商品化論からみた
周辺一中心：

周辺関係の今日的意味

●小原規宏

(茨城大学人文社会科学部准教授)

かつての「周辺」へのまなざしが大きく変化している。発表では空間の商品化論を援用して、再構築された「周辺」を読み解く。さらに、中心と周辺という考え方がその意味を失っているなかで、あらためて中心や周辺の意味について振り返る。

日本酒のこれから：

SAKEと地酒の間で

●塩谷弘康

(福島大学行政政策学類教授)

福島県は全国新酒鑑評会「金賞受賞数6年連続日本一」を達成した酒どころであるが、一方で、2016年には榮川酒造と花春酒造という会津を代表する蔵元が経営破綻した。アルコール飲料の市場規模が縮小し、農業後継者や杜氏・蔵人が高齢化するなかで、日本酒の将来はどうなるか、「SAKE」と「地酒(自酒)」をキーワードに考えていきたい。

グローバル化される周辺
社会：太平洋島嶼社会から

●柄木田康之

(宇都宮大学国際学部教授)

ミクロネシアからハワイへの移民過程で高齢者ケア・葬送儀礼等が貨幣経済化される一方、ミクロネシアの伝統航海術がハワイ先住民のアイデンティティに流用されていることを報告する。

総合司会：塚原伸治
(茨城大学人文社会科学部)